

ありがとう

妻きみの墓標に語りつつ

ひとり迎えし 三度みたびの春を

みよ子三回忌



遅咲きの

越生おごせの梅に振り返る

背になつかしき 妻きみの声聴きこく

みよ子三回忌



亡き妻きみの愛きみしき声こゑに 振り返る

重ねし季節ときは 三年みどせの春はるに

みよ子三回忌



妻きみの声こゑ 背せになつかしう 振り返る

三年みどせ重ねし 主亡ぬしき雛ひなが

みよ子三回忌



ななたび

七度の春を迎^{むか}うる

我が胸の

微笑^{ほほえ}む妻^{きみ}は

今^かも変わらじ

みよ子七回忌



ぼんぼりに

あかり灯^{とも}せぬ七度の

主^{ぬし}亡^{ひな}き雛^{ひな}に

桃^{とう}花^かさびしき

みよ子七回忌



春よ来い

妥協許さぬ

ひたむきさ

君に届けよ

大輪の花



たびじたく

旅支度

ととのえし今

たず

尋ねおり

きみ

妻待つ浄土

ところ

とき

時季こそいかに

みよ子九年忌



満開の

さくら凍える

なごりゆき

